

徳地森の子くらぶ

〈令和5年1月21日(土)~22日(日)〉

【目的】

自然体験活動を通して自然に親しむ態度や豊かな情操を育むとともに、集団での宿泊体験を通して自立心や望ましい生活習慣を身に付ける素地を養う。また、本事業を実施し、参加者が自然体験についての興味や関心が高まることで、体験活動の普及を推進する。

【参加者】24名(男子12名, 女子12名), 法人ボランティア5名

【プログラムの内容】

1日目

- 11:00 はじまりの会
- 11:30 みんなで仲良くなろう
- 12:30 昼食(弁当)
- 13:30 フードハンティング
- 17:30 夕食(食堂)
- 19:00 グループミーティング
- 20:00 入浴
- 21:30 就寝

2日目

- 6:30 起床
- 7:30 朝食(食堂)
- 9:30 アウトドアクッキング
- 11:30 昼食(アウトドアクッキング)
- 13:30 ふりかえり
- 14:00 さよならの会
- 14:30 解散

「みんなで仲良くなろう」



「みんなで仲良くなろう」の前半では、自己紹介を取り入れながら、アイスブレイクを行うことで、徐々に参加者の緊張がほぐれていった。後半はグループや全員で挑戦するアクティビティを行うことを通して2日間のキャンプで「自分もみんなも楽しめるキャンプ」を考えるきっかけとなった。

「グループミーティング」



「グループミーティング」ではフードハンティングのふりかえりと翌日のアウトドアクッキングの役割分担を行った。フードハンティングのふりかえりを通して、「人のことを考えて楽しく過ごす」などのグループの翌日のめあてを設定するグループもあった。

「フードハンティング」



「フードハンティング」では、翌日のアウトドアクッキングで使用する食材やアイテムのカードが入った宝箱を、グループごとに探す活動を行った。宝箱には各グループの色のシールが貼ってあり、宝箱を見つけてもグループの色でない宝箱は開けることができないルールとした。そのため、地図に記された場所に行っても開けることができない宝箱が設置されていることもある。参加者はグループで見つけた宝箱の数を競うのではなく、「全グループが宝箱をゲットできる」を目標に、グループ間で情報を共有しながら活動を行った。

参加者にとって、翌日のアウトドアクッキングを意識しながら、自然のなかで宝箱を探す活動は冒険そのものであり、有意義な時間となった。

「アウトドアクッキング」



「アウトドアクッキング」では、フードハンティングで獲得した食材とアイテムを使って、ポトフを作った。参加者は前日に設定しためあてを意識しグループで協力しながら火起こしを行ったり、野菜を切ったりして調理をしていた。包丁を使うこと自体が初めての体験という参加者も多く、スタッフにアドバイスを受けながら慎重に食材を切ることができた。後片づけでは、鍋の汚れを落とすのに苦戦しながらも、粘り強く最後まで鍋を磨き、食器点検に合格したときにはグループで喜ぶ参加者の姿が見られた。

【参加者の声】

「友達ができて楽しかった」「料理を手伝いたい」「自然のことを調べてみたい」等の感想があった。

【成果】

アンケートの結果では参加者全員が満足・やや満足と回答があった。体験を通して、次の活動にどう生かすかを考えさせる場面を仕組むことで、最終的には参加者が学校や家でがんばりたいことを考える機会となった。

【課題】

「フードハンティング」では、グループ同士が積極的に情報共有ができるように、時間を決めて集合し「情報交換タイム」などを設定することで、さらにグループ間で協力することができたのではないかと考える。